

令和元年度 「森林サービス産業」検討委員会（第3回）

議事概要

日 時：令和2年1月22日（水）15:00～17:00

会 場：農林水産省三番町共用会議所「AB 会議室」

<出席者>

【委員】（五十音順）

委員長 宮林 茂幸（東京農業大学 地域創成科学科 教授、美しい森林づくり全国推進会議 事務局長）

副委員長 鍋山 徹（（一財）日本経済研究所 専務理事、
林業復活・地域創生を推進する国民会議 WG 主査）

委 員 赤池 学（（一社）CSV 開発機構 理事長）

〃 安藤 伸樹（全国健康保険協会（協会けんぽ） 理事長）

〃 稲本 正（東京農業大学 客員教授）

〃 小川 幸生（全国町村会 経済農林部長）（代理）

〃 熊谷 晃（長野県 信州ブランド推進監 営業本部 営業局長）

〃 斉藤 佳男（経団連自然保護協議会 事務局次長）（代理）

〃 志村 格（（一社）日本旅行業協会（JATA） 理事長）

〃 杉野 正弘（（公社）日本観光振興協会 事業推進本部観光地域づくり・人材育成部門担当
地域ブランド創造部長）（代理）

〃 筒井 公章（（独）国立青少年教育振興機構 総務企画課長）（代理）

〃 津野田 勲（（一社）香りの健康ライブラリー 代表理事）

〃 吉弘 拓生（（一財）地域活性化センター 総務企画部企画課クリエイティブ事業室長）（代理）

1. 議 事

（1）「健康分野における森林空間の利活用を促進するためのエビデンスの取得、発信・共有、蓄積に向けた調査・分析」の検討結果（エビデンス専門部会）【資料1】

①「企業の健康経営における「森林空間活用」を促進する仕組み」

②「国内外の先行研究の収集・整理」

③「エビデンス取得モデル手法の試行運用・発信方法等」

・エビデンス部会で一番苦労したのは、p7 今までの論文を集積、分析いただいた点。システムティックレビューはなかったが、非ランダム化比較試験で多くの論文が見つかった。森林サービス産業をいかに広めるかを考えると、各企業に健康経営について取り組んでもらうことが必要で、そのためには各企業の経営者が納得できるエビデンスが必要。今後は、ストレス状態の改善、機会損失の削減、生産性の向上など、経営者が求める観点に対応させて、刺さるエビデンスを取っていくこととした。森林が与えてくれる効果の中に、メンタルヘルスに対する効果がみられるが、どういう形でエビデンスが取れるか今後の課題。

・難しい側面もあると思うが、一つの方向性として示していただいた。この温泉だったら何に効く、と
いうように、地域ごとに違うこともあると思う。

- ・分子レベルの効果検証も進んでいる。森に行けば気持ちいいことは誰でも知っている。なぜ効果があるのか基礎研究では、高度な自律神経測定機器も必要になる。これらがどのようにつながっているのか、研究する必要もある。更なる上のシステムに対応するものを作っていかなければならないと思う。
- ・今後、課題が整理されていくべき。

(2) 「「森林サービス産業」のマッチング・情報共有の仕組み構築に向けた調査・分析」の検討結果(情報共有専門部会)【資料2-1】

- ①「関係省庁・団体等による全国レベルの支援施策・推進体制の事例収集・整理」の検討結果【資料2-2】
- ②「都道府県における支策施策・先進事例等の実態調査」【資料2-3・2-4】
- ③「全国レベルで構築すべき支援施策・推進体制等のあり方」【参考資料4】
- ④「モデル地域創出方法のあり方」

- ・資料2-3を見るに、森林空間に関する根本的な考え方が従前から変わっていない、という点が見えてきた。価値観の転換が必要ではないかと思う。価値観の転換を進めるための方法論を示していくともっとわかりやすくなると思う。

- ・人口減少社会に突入した日本では、価値観の転換が起きはじめている。地域の“内”ばかりでなく、地域の“外”とつながることが地域活性化の起点になる。「“外”に点を打つ」、つまり広い視野を持って新しいマーケットを開拓する先行事例が出てきた。

モデル地域のポイントは4つ。1つ目は自立性。地域の自立性は、ヒト・モノ・カネ・情報という地域資源のうち、とくにカネの視点で“自主財源”をもっているかがポイントだ。熊本県南小国町の黒川温泉旅館組合は、入湯手形を発行して、その自主財源で景観づくりや災害対策を行っている。他方、観光業の活性化を目的に全国で設立された日本版DMO(Destination Management Organization)の多くは自主財源をもっていないので、自立性はない。2つ目は開放性。地域の外からの意見を受け入れるためのオープンな気質が必要になる。“よそ者”ではなく、“そと者”という言葉が出てきたのは良い兆しである。3つ目は多様性。地域ごとにさまざまな要素を組み合わせるソリューションを生み出していかなければならない。4つ目は継続性。5年から10年の柔軟な意思決定と粘り強い実行力が必要になる。ウッドデザイン賞2019特別賞(木のおもてなし賞)を受賞した、大分県日田市の田島山業の「森のウェディング」は、森林空間を結婚式場にして、ジビエからシイタケなど林産物を含めて、食と結婚式を組み合わせた「森林サービス産業」の先行事例(B to B→B to C)である。外に点を打つためのキーパーソンは、“本物”のプロデューサーや“本物”のコーディネーターである。日本語の曖昧さは問題で、「言葉の再定義」が必要だ。

また、森林サービス産業を進めていくために、健康のみを強調するのではなく、都市の人々へのメッセージとして、楽しい、面白い(感動)、といった共感を呼び起こす仕掛けが必要になる。“広がり”があるように都市の人々に見せていく手法が有効だろう。

- ・インバウンドでもいろいろなタイプがある。多様性、文化性、階級によってさまざま。健康に対して楽しみ、共感がないといけない。女性の視点を入れることは重要。
- ・価値観の転換は、企業の中でも暮らしの中でも変わっている。そのあたりに対してパンチのあるところを出すといい。

(3) 「香ビジネスの促進に向けた調査・分析」の検討結果（香イノベーション専門部会）

【資料3】

- ・森林セラピーとアロマセラピーを両方やっているところが、日本ではあまりない。森林セラピーのものになっているのは、森林から出る芳香であることは論文等も出ている。アロマをやっている人は都市にいて森林を知らない。山で働いている人は都市でアロマセラピーを受けたことがない。この乖離をどう埋めていくか。エビデンスでこれらをつなぐことが必要。基礎研究だけでなく、応用研究として、富士山静養園の山本さんがやられていることはいい事例。日本の森林は多様で、多様なアロマが取れることがわかってきた。日本の森林はアロマのポテンシャルも高い。アロマには家元制度のようなものがあり、アロマについて勉強している人が10万人もいる。これは世界的に見ても特殊。外国産のアロマの勉強がほとんどなので、その人たちが日本の森林に行き、日本産アロマについて知ってもらうことが必要。海外の人には日本産のアロマがとてもエキゾチックだと評判がいい。生産をきちんとすれば産業になる可能性がある。生産状況を調べたが、ある程度量ができるところは10社ほどしかない。トレーサビリティはしっかりしていても、成分分析が難しい。一定のシステムをつくるために、生産者の教育や成分分析をしっかりやる必要がある。人件費など固定費が高いため、海外産と比べると競争力がないが、アロマの要望が多い。たとえば、介護、認知症予防、ガン末期など幅広いが、それを広めるための財源をどこにもっていくか。今取り組んでいる人はほとんどボランティア。オフィスワーカーにいかにかアロマを浸透させるかが課題。マインドフルネスと一緒にやるなどの工夫が必要。グーグルなどでは成果が出ている。もっとエビデンスを集める。森林に行かなくても、予防医学的な効果を得ることが広まれば、日本産アロマの需要が高まる。インバウンド、海外への実績をつくることも重要。小規模でアロマを生産しているところは90社ほどある。地場産業に結びつく。同じヒノキでも、地域によって香り、成分も違う。クロモジも4種類あることがわかった。各地域の特殊性を取り上げて、地方創生と結びつける。森林サービス産業と一緒にやる場合、森の香りのマインドフルネスを都会でやると評判がいい。いかにそこから森林に行ってもらえるようにするか。森林サービス産業と香りをどう結び付けるか。
- ・基礎研究をしっかりすることも必要だが、サービス産業とセラピーの関わりをどうつなぐのか、いろいろな面があると思う。そういった報告があるといい。

(4) 報告書の構成（案）について【資料4】

- ・報告資料の構成内容が参考資料レベル。本題と参考資料を混ぜてしまうとよくない。第1章の森林サービス産業の考え方、内容については、昨年度の報告書の抜粋とあるが、今年度の特徴である、健康、香りを特出した背景を書かないといけない。こういうことをやると、森林自治体に対して、どういった経済波及効果が出るかについて1章の中でしっかり書き込み、第5章の先進事例集で、派生した取り組みがどう地域貢献につながったかを書いてほしい。香ビジネスはまだ課題が多すぎて、独立した章として入れるのは難しいのかもしれない。第5章の中に入れて方がいいのかもしれない。
- ・部会ごとのまとめという章立てにしていた。赤池委員のご指摘を受け、要素の再編集をしていきたい。部会では具体的な事例をご紹介いただいているので、地域への経済波及効果についても、自治体に関心を持っていただけるようなものを組み込んでいきたい。

(5) ワークショップの開催内容について【資料5】

(6) その他

○ 今後の進め方について【資料6】

○ その他

- ・ ご意見があれば事務局へお願いしたい。報告書の中身については、地元が疲弊化して森林も荒廃が進んでいたが、森林に対する価値観の転換が起こっており、みんなで森林に行こう、という方向性が出るというと思う。